

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成20年度農作物病害虫発生予察情報について

平成20年度農作物病害虫発生予報第7号を発表したので送付します。

平成20年度農作物病害虫発生予報第7号

平成20年 8月29日
徳 島 県

.普通作物
普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が8.3%、株あたり寄生虫数が0.07頭)。
- (2) 8月5半旬までの時点において、予察灯への誘殺を認めていない。
- (3) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が36.9%、被害葉率が1.0%)。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

.果樹
カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査(スダチ)では発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が14.2%、果実発病度が0.5)。

(2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 枯れ枝を極力除去する。また、せん定枝は園外に持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並～やや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場では発生を認めなかった(無防除区、8月20日調査(平年同時期は寄生葉率が10.1%、1葉あたり寄生虫数が0.17頭))。

(2) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率は80.0%、寄生葉率は9.9%で、平年(55.2%、9.3%)より発生面積がやや多かった。

(3) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率が71.4%、葉の発病度が3.8で、平年(30.5%、3.0)より発生面積が多かった。

(2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度：「少～中」、発生量：平年よりやや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率は57.1%、寄生葉率は11.4%で、平年(31.9%、10.6%)より発生面積がやや多かった。

(2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生の多い園では収穫後に防除を行なう。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度：「中」、発生量：平年よりやや多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は80.0%、発病葉率は15.8%で、平年(54.2%、8.5%)より発生がやや多かった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

炭そ病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が4.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生程度：「少～中」、発生量：平年並(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 8月に入り、勝浦町において、予察灯へのツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシの誘殺虫数が急増している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年
8.1	240	28	177	4	99	12	3	4	0	10
8.2	348	10	340	13	78	14	4	1	2	11
8.3	273	21	1,358	36	174	10	3	6	3	10
8.4	56	8	478	40	110	8	18	70	1	14
8.5	38	8	358	59	71	8	3	8	1	7
8.6		6	217	96	69		2	13	2	7

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年	2008年	2007年	2006年	2005年	平 年
8.1	67	64	113	2	101	10	63	7	8	36
8.2	107	58	235	12	96	4	29	15	11	27
8.3	219	61	612	32	188	15	35	14	12	22
8.4	309	41	444	129	133	19	11	38	3	19
8.5	85	56	571	145	147	41	2	35	23	19
8.6		29	536	284	186		1	21	8	14

- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 果樹カメムシ類は夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

野菜 夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は44.4%、発病葉率は1.2%で、平年(55.6%、9.4%)よりやや少なめの発生であった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生程度：「少～中」、発生量：平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は55.6%、寄生葉率は0.7%、被害果率は2.2%で、平年(33.9%、3.2%、3.6%)より発生面積がやや多かった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は22.2%、寄生新梢率は0.4%で、平年(8.9%、0.5%)より発生面積がやや多かった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているため、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は33.3%、寄生葉率は0.4%で、平年(33.1%、5.9%)より寄生葉率が低かった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率とともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているため、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、50株当たり虫数が0.2頭で、平年(52.8%、5.0頭)より発生が少なかった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり、食害して葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。
- (4) ヨトウコン-Sによる交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が18.3%、葉の被害度が0.2)。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生程度：「甚」、発生量：平年よりやや多い(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は27.3で、平年(76.9%、18.8)より発生がやや多かった。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は平年よりやや少なめで推移している。
- (2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並～やや多い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は5半旬に急増している。

(2) 8月22日発表の1ヶ月予報では、気温は平年並または高い確率ともに40%と見込まれており、やや発生助長的気象条件である。

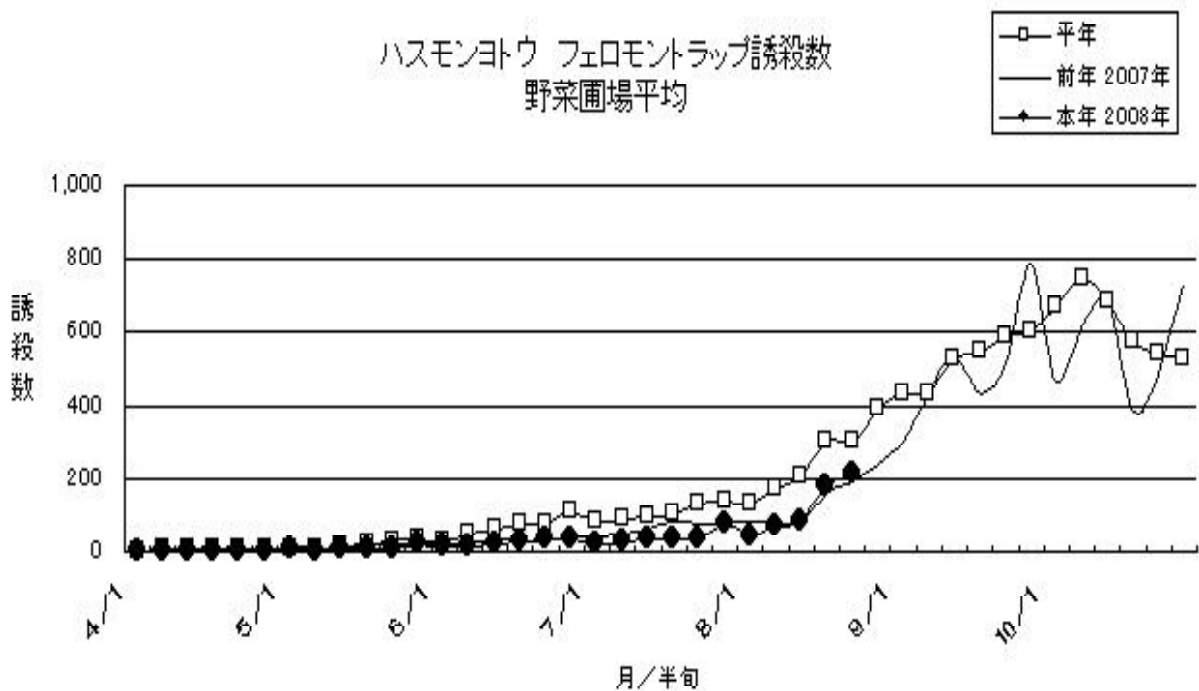
3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行なう。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

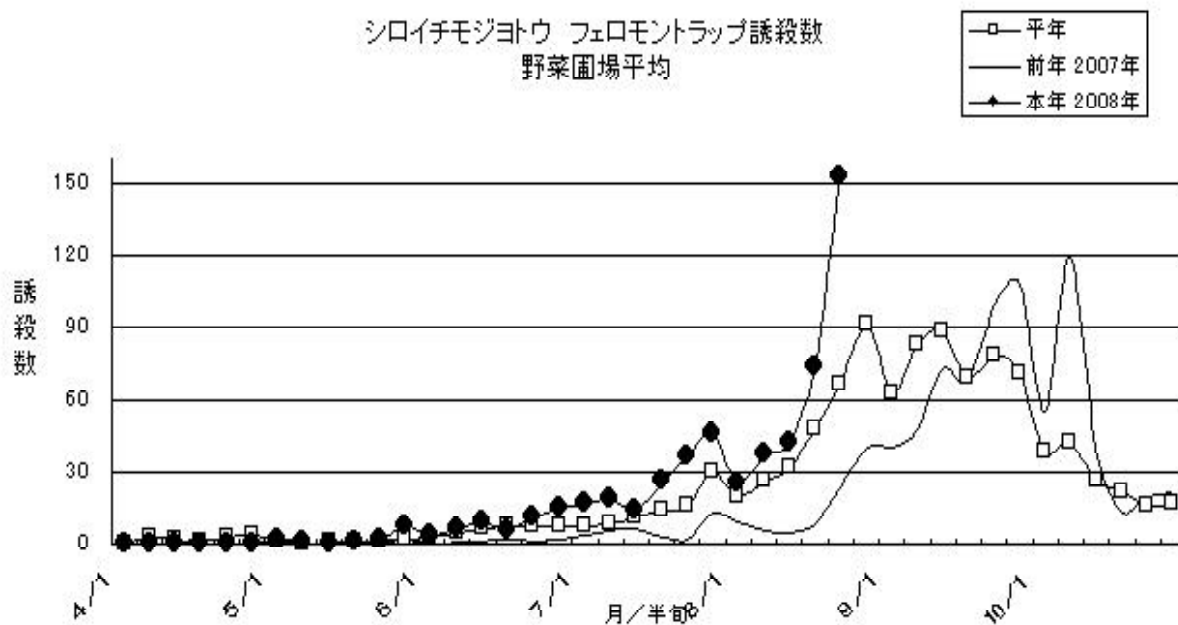
(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2008年	2007年	2006年	2005年	平年	2008年	2007年	2006年	2005年	平年
8.1	43	82	132	114	133	26	9	4	68	20
8.2	72	81	185	158	174	37	6	4	112	26
8.3	83	79	140	201	207	42	5	8	121	31
8.4	170	158	266	226	298	73	9	20	203	47
8.5	209	194	249	214	302	153	24	20	307	66
8.6		238	373	372	392		40	29	920	91



調査圃場：徳島市(川内，不動)，石井町，阿波市(柿原，香美)，吉野川市(鴨島)，東みよし町(三加茂)

シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数
野菜圃場平均



調査圃場：徳島市(川内，不動)，石井町，阿波市(柿原，香美)，吉野川市(鴨島)

その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

テレホンサービス：0 8 8 3 (2 6) 1 1 9 9

U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。